

【第1分科会】福山市立千年小学校

『豊かな言語力と感性をもつ児童の育成』

I はじめに

本校は、2012年度（平成24年度）から2015年度（平成27年度）の4年間、「豊かな言語力と感性をもつ児童の育成～読書力を高める指導プランの実施を通して～」を研究主題として、図書館教育の研究を進めてきた。2016年度（平成28年度）からは、「相手意識をもって自分の考えや思いを表現できる児童の育成」を研究主題とし、国語科と総合的な学習の時間を中心に研究を進めている。その中で、豊かな言語力を活かして表現できるよう、図書館教育の取組も継続して行っている。本校で、どのように図書館教育を進めてきたかを報告する。

II 取組の概要

- ・読書環境の工夫
- ・読書意欲の喚起
- ・教材と読書をつなげる言語活動の充実

III 提案のポイントとなる内容、協議したい内容

本との出会い

(1) 教材と読書をつなげる単元づくり

(例)「斎藤隆介さんの作品を全校に紹介カードで紹介しよう！（モチモチの木）」(3年生)

教材文で、人物像の読み取り方を学び、それを活かして、おすすめする斎藤隆介さんの作品の登場人物の人物像を読み取り、カードにまとめて、全校で紹介する。

「文章を要約して本の帯を作ろう！（ウナギのなぞを追って）」(4年生)

教材文で、興味のある内容を中心に要約してまとめるやり方を学び、それを活かして自分の選んだ研究の本の内容を要約してまとめ、本の帯をつくり、図書室に掲示する。

「ヌマクマ春の本まつり♪ようこそ5の2書店へ！（千年の釘にいどむ）」(5年生)

教材文で、文章の内容や要旨を捉えてキャッチコピーを考え、それを活かして、グループごとに本のテーマを決めて2年生に紹介する本のキャッチコピーを考え、2年生を招待し、本まつりを開催する。

(2) 「素敵な本に出会いましたか」を合言葉にした行事や集会

- ・読書まつり
- ・1学期終業式や2学期始業式での校長先生の話

IV 成果・課題

- ・「基礎・基本」定着状況調査において、「本を読むのが好き」と答える児童は年々増え、読書を楽しむ児童の姿が多く見られる。
- ・「基礎・基本」定着状況調査（平成30年度）において、家で資料等を利用して学習している児童は61.2%と少ない。家で資料等を利用して学習するような家庭学習を考える必要がある。
- ・全国学力・学習状況調査（平成30年度）における、「授業時間以外に1日どのくらい読書するか」という質問では、30分以上読書する児童が県平均より11.2%高い54.6%であった。

V おわりに

読書が好きな児童が増えているため、今後も図書室を充実させていく。また、さらなる学力向上を目指して本を活用した授業づくりに取り組んでいく。